

小矢部 木造空き家鑑定士の講習

建物の骨組みの状態や希少性などを判断する「木造空き家簡易鑑定士」の実技講習が15日、小矢部市岩崎

の空き家で行われた。小矢部と南砺両市のシルバー人材センターの会員7人が劣化部分の診断や傾き具合の

を創出するのが狙いで、7人は3月の講習で資格を取得して以降、初の実技に臨んだ。

鑑定士は住まい教育推進協会（東京）が認定する資格で、地域の空き家に関する調査業務のほか、年月をかけて強度を増した古材の価値を伝える役割も担う。



調査に取り組み、鑑定士としての資質を高めた。

実技講習は 県古民家再生協会（小矢部市）が市シルバー人材センターと連携して企画した。シニア層の新たな就労機会

築93年で昨年5月から誰も住んでいない空き家を調

し、「下げ振り」と呼ばれる道具を使って、壁の傾斜を測定するなどした。